

# 黒住教 お日の出を拝み、感謝と感動の心で誠を尽くす ふるさと・イキイキ・だより

発行：黒住教本部 岡山市尾上神道山 TEL:086-284-2121 FAX:086-284-4756 http://www.kurozumikyo.com/



## 粛々と優雅に 四月六日(日) 大元・宗忠神社 御神幸

四月六日(日)、晴れ渡る空の下、黒住教教祖宗忠様ご生誕の地霊地大元(岡山市)の宗忠神社から日本三名園のひとつ後楽園まで往復約十二キロメートルの御神幸が厳粛に、また晴れやかに執り行われました。  
当日のお天気は本当に教祖様のご神慮を感じさせられる快晴、花見日和となり、一〇〇〇人余りの行列の奉仕の人たちもにこやかな表情でした。  
御神幸は、明治十八年(二八八五)の大元・宗忠神社ご鎮座を神機に翌十九年に始められました。戦争のため一時期、途絶えていましたが、先輩諸兄の努力により、昭和二十七年再開され、今年で復活第五十七回となりました。平成十三年からは岡山さくらカーニバル(岡山県岡山市・経済界・報道関係各社主催)のメインイベントとなり、岡山の春を彩る大きな祭りとして、市民市民の方々からも毎年心待ちにされております。  
上満開の桜を背に粛々と進まれる御鳳輦(御神霊をお遷しした御輿)  
右 御神燈の下いざ後楽園へ  
左 参拝の方に会釈される教祖様と副教祖様

# 神道山からのお知らせ(平成二十年七月～十二月)

- \*黒住教本部の主な行事\***
  - 八月十六日(土)第二十二回まるごとヤングキャンプ(十八日まで)
  - 小学五年生から高校三年生を対象とした二泊三日のイベントです。期間中実際にキャンプ場に行き一泊します。参加ご希望は本部までご連絡下さい。
  - 九月二十三日(火)午前十時三十分 秋季祖霊祭
  - 十月五日(日)午前十一時 第五十九回献茶祭(添え盆茶席午前九時～午後四時)
  - 五流派(表千家流・裏千家流・速水・流・武者小路千家流)のお家元が交代でお献茶奉仕をされる献茶祭です。本年の献茶奉仕は武者小路千家流です。
  - 十月十九日(日)二十五日(土)二十六日(日)午前十一時 立教百八十四年・神道山ご遷座三十四年記念祝祭
  - 昭和四十九年十月に立教の地である大元より、お日の出を求めてご遷座して三十四年。秋の祝祭は一年を通して一番多くのお道づれがご参拝されます。
  - 十二月二十一日(日)正午 冬至大祭
  - 三大祭の一つです。教祖宗忠さまのご誕生も、黒住教の立教の日も冬至(旧暦の御日拜の時でした。このことから、黒住教では冬至の日を一年で最も大切な日として扱っています。
  - 十二月三十一日(水) 大祓除夜祭
  - 一年間の罪けがれを祓うその年最後の神事です。
  - \*大元・宗忠神社の主な行事\*
  - 七月二十日(日)午後五時 大祓い夏まつり
  - 半年の罪けがれを祓う神事です。茅の輪くぐりでも有名です。
- 八月六日(水)七百五十六年午後六時 七夕まつり
- 仙台の七夕飾りを「お嫁入り」いただき参道に飾り付けます。境内は美しく飾り付けられた竹林となつて、ご参拝の皆様をお迎えします。
- 十一月二十三日(祝)午前十時 青年連盟チャリティーバザー(大元・武道館)
- 十二月二十一日(日)午後三時 冬至祭
- 神道山大教殿の「冬至大祭」に引き続き行われます。
- 十二月三十一日(水) 大祓除夜祭
- \*神楽岡・宗忠神社の主な行事\*
- 十一月三日(月)午後一時 秋季例大祭
- \*神道山ついでに御日拜のご案内\*
- お日の出の郷 神道山では、毎朝、お日の出の時刻二〇分前より、日拜所で「御日拜」を執り行っています。
- \*御日拜：毎朝のお日の出を迎える神事です。どなたでもご参拝いただけます。ぜひ一度お参り下さい。
- \*毎月一日の「ついでに御日拜」には、多くの方がお参りになります。
- 「ついでに御日拜」の開始時刻は左記の通りです。
  - 七月一日：午前四時二十五分
  - 八月一日：四時五十五分
  - 九月一日：五時二十分
  - 十月一日：五時四十分
  - 十一月一日：六時〇五分
  - 十二月一日：六時三十分
  - 一月一日：七時十四分

**養心塾「道のいろは」のご案内**

これからは、心を豊かに養うとき、心身の健康のために「養心塾」のいろはが役に立ちます。

お日の出の郷・神道山―心洗われ英気が養われる御日拜

緑あふれる神道山―四季折々の豊かな自然に気持ちもゆったり

開運への入口・養心塾―黒住教は開運の宗教です。より幸せな人生を！

対象者 黒住教信仰の心が浅い方。お道づれ(信仰者)に限らず広く一般の方々も参加できます。

参加費 宿泊費十食代(九日間)一九〇〇〇円 ※白上衣購入実費別途三、〇〇〇円

期間 秋のコース 九月(金)十三日(土)十四日(日) 十月(金)十一日(土)十二日(日) 十一月(金)九日(土)十日(日) 十二月(金)七日(土)八日(日)

詳細・お問い合わせ 黒住教本部 養心塾事務局 〒700-0972 岡山市尾上神道山 電話 〇八六-二八四-二二三三 FAX 〇八六-二八四-四七五六

**貴方のご縁のある教会所は…**

**\*主要連絡先\***

**大元・宗忠神社**  
〒700-0972 岡山市上中野1丁目3-10  
TEL086-241-0148 FAX086-241-7860

**神楽岡・宗忠神社**  
〒606-8314 京都市左京区吉田下大路町63  
TEL075-771-2700 FAX075-771-2465

**北海道地区 札幌教会所**  
〒061-2282 札幌市南区藤野二条10-5-1  
TEL011-876-8851 FAX011-876-8852

**関東地区 東京支庁・東京大教会所**  
〒154-0001 世田谷区池尻2-21-18  
TEL03-3795-4142 FAX03-3795-4209  
URL…http://www.kurozumikyo-tk.com

**中部地区 名古屋教会所**  
〒460-0001 名古屋市中区三の丸1-10-33  
TEL&FAX052-231-4285

**関西地区 大阪大教会所**  
〒543-0062 大阪市天王寺区逢阪1-3-14  
TEL 06-6771-8191 FAX 06-6771-8199  
URL…http://www.kurozumikyo-osaka.com

**天王中教会所**  
〒652-0008 神戸市兵庫区上祇園町7-12  
TEL 078-361-4806 FAX 078-361-5760

**九州地区 福岡教会所**  
〒811-1344 福岡市南区三宅2-10-14  
TEL&FAX 092-511-9623

**●まるごとダイヤル●**  
教祖様・副教祖様の講話・教団の活動情報が聞けます。  
**086-284-1111**

**黒住教機関誌「日新」**  
1冊150円/年間12冊1800円  
お申込は教会所まで。

**黒住教ホームページ**  
教祖神・教えと実践・教団の歴史・活動・書籍など  
**kurozumikyo.com**

# 今日只今を大切に生きる

ここ数年、黒住教本部神道山へお問い合せの多かった悩み事、相談事の中より、大教殿司教がご質問にお答えいたします。

【質問】親しい人の死に際して衝撃を受け、このところ、死んだらどうなるのかと考えてばかりいます。黒住教ではどのように教えられているのですか。(J・O)

【お答え】大切な問題であり、また難しいことですね。教祖様は、「死は絶えて無きものであり、生き通しこそがお道である」と御教えです。したがって「生き通し」という御教えは、本教の教理を理解する上のキーポイントですが、なかなか言葉ではうまく表現しかねます。

かつて小林伊之吉先生(有功門人)は、天命直授(てんめいじきゆ)黒住教立教の時となった、教祖様のご体験を通して教祖様がお悟りになられたことで、今の学問をもつて説明できないことでも、そのことを信じて教祖様についていく」と語られたと伺っています。

その姿勢につきると思います。実際、私たちの先輩方には、実に神々しく形を脱がれた(昇天になつた)方が数多くあります。

その方々に共通することは、御教えを学び、教祖様を信じてお慕いしていけば大丈夫、と心に成しなされた方々であります。

航海に海図が必要であるように、よりよい人生を歩むためには、生きながら神となられた教祖様をはじめ素晴らしい人生を送られた先輩方の歩まれた道を学ぶことが大切です。この世の人生が充実して素晴らしいものであれば、昇天後の世界も充実し素晴らしいのです。現在なくして、過去も、未来もありません。素晴らしい未来を望むならば、今日只今を大切に生きる必要があります。

最近聞いた話ですが、宗教者を迎えないで友人葬と称して親しい人たちだけで葬儀をし、その葬儀に立ち会った人が、亡くなられた方の顔がいかにも不満に見えたというのです。また、葬儀をどこに頼んでつとめてもらおうかと、もめていた遺族が縁のあつた本教に頼むことになり、

# 祓い

大教殿勤番補 野村一裕

夏がやってきました。気温が上がりつくと、「暑い、暑い」とつい文句を言ってしまう。誰だつて暑いのはいやです。雨が降ると「鬱陶しいなあ」ということになります。私たちは、気を付けないと知らず知らずのうち

に不平不満や文句を口にしてしまいます。でも考えてみて下さい。暑さも雨も、それが必要だから存在しているのです。だつてそうでしょう。夏の暑さがなければ、草木はもちろんのこと、私たちが養つてくれる稲や野菜も大きくなることができませ

ん。雨が降らなければ、大地に根を下ろしたものはことごとく枯れてしまいます。そのことは言うまでもありません。「だつたら肉を食べればいいじゃないか」ですつて……。牛や豚だつて殺物を食べて大きくなるのです。殺物は畑で育つのです。

ところで、本教三大祭のひとつである大祓大祭の時季がやってきました。神道山大教殿では毎年六月三十日に執り行われま

す。素晴らしい未来を望むならば、今日只今を大切に生きるこ

最近聞いた話ですが、宗教者を迎えないで友人葬と称して親しい人たちだけで葬儀をし、その葬儀に立ち会った人が、亡くなられた方の顔がいかにも不満に見えたというのです。また、葬儀をどこに頼んでつとめてもらおうかと、もめていた遺族が縁のあつた本教に頼むことになり、

# 大切に 戴いている命を

【質問】オカルト的な宗教はともかくとして、若者の宗教離れをどう思われますか。現実には即した宗教活動、神仏の存在をどのように説明したらよいでしょうか。(S・S)

【お答え】若者の宗教離れは、今に始まったことではないのですが、この問題は、若者に伝えるべき七十から五十歳くらいの世代に

問題があるようです。その世代の人は極端に言うとうと、先の大戦の反動で神や仏などあるものかといった風潮がまん延した、宗教に対して無関心の時代に育ち、

その世代の人々の多くはどのよう

に自分自身が生きていけばよい

か、子供や孫に何を伝えたら

よいかという肝心なことを教え

られていない人が多いのです。

ちやうどその世代は、都会に仕事を求めて故郷を出ていった人が多く、都会の高層アパート群に生活の居を構えて若い人たちだけで新生活を切り開いていった世代でもあります。今から三十年余り前、未来の理想の街づくりとてはやされたアパート群を見て、「何が理想であるのか、若者だけの街に、精神的なよりどころとなる神社やお寺が一つもないではないか。子供たちが果たしてまともに育つであろうか？」と、警鐘を鳴らしていた識者もありましたがその通りで、この現実が、今日いろいろ考えさせられる事件や問題の遠因なのです。

どう説明すればよいかということですが、まずいただきたい命を大切にすることという

ことを伝える

こと

を共有することが第一歩です。(大教殿司教 藤原徳行)



今でも昨日のように思い出されます。あの命の目覚めの日を。

私は一昨年の十一月二十八日、ずい臓癌の末期・手術不可能と宣告され、東京の大病院での入院生活を余儀なくされました。本人には知らされなかつたが、「もう年は越せまい」と言われた私でした。その私が今、ここにこうして存在している。それは、ま

ぎれもなく、あの「命の目覚めの日」を与えられたからでありましょう。

その「命の目覚め」とは……。死を覚悟し、全てが終わるのだ、と魂の抜け

たようにポーっ

として入院生活を送り始めたその三日後くらい

# 道の入りに立って

第58期生専修科生 大森 洋子

ハタと夢から覚めたように目覚めさせられ、年老いた母より先に死んではいけない」と気付

かされた事でした。更に私の命を

目覚めさせてくれた二つ目の大きな要因は、教主様による直禁厭(じきまひん)を戴いた事です。その直禁厭は忘れ様にも忘れる事が出

来ません。「金石相軋(さし)つて火を

発するが如し」の禁厭であり、死のうとしていた命を目覚めさせて下さつたのです。間違いなく生かされたのです。そして入院後四十七日目にして(昨年一月十四日)五センチもの癌を抱え

たままではあるが退院し、四月には神道山に参らせて戴き、学院生となりました。その時の私はまるで喉の渴ききつた旅人が砂漠のオアシスの水を求める如くに、教祖神の御教えを求め、求め、そして吸いつけられるように、何かに引き寄せられるように導かれていったような気が致します。今もって御教えは求め

ても今だ足りず、只ひたすらに求め続ける日々が続いています

が…。又、体験発表等をさせて戴く度に、生かされて生きていくという有り難さを痛い程感じさせられます。

学院での学びを通し、又学院を巣立つた後の実体験の中で辿り着いた先は何かという、それはやはり教祖神の歩まれたその道、即ち「三天修行」の重要性と偉大さでした。

大祓詞で始まる「御日拝」は、親神様とご一体になれる場であ

り、ご分心を養つて戴ける時。そして御陽氣修行は丹田呼吸により体中に何か新しい新鮮な御光を戴き、生命を躍動させてもらえるような実感を与えて戴けます。

日々の一日一日の祈りの積み重ねの中から私は正に日乗りの経験を通して、このように学び感じることができ、やつと、大いなる道」の入口に辿り着いたと云う気が致します。

これからが本道です。天照大御神様の大きな大きな御心を、教祖宗忠神が、満身を込めて御教え下さるこの「生命の教え」を真向から受け、ご分心を養いながら、共に歩ませて戴く、その大きな大きな道の入口に私は辿り着いたと思うのです。そして命が与えられる限り、体が動く限り、病気で苦しむ人々の為、力となつて生かされて生きていきたい。教祖神が天より「生きよ! 生きよ!」と黄金の御光を注ぎ込んで下さつていますよ!と手を握りあつて、教祖神の御心をお伝えしていきたい。これが私にお与え下さつた使命であり大いなる喜びです。

拍手